

日本の役割とSDGs

現代社会

憲法

政治

経済

国際社会

これから

今日の問い

日本は国際社会でどんな役割を果たし、これからの社会をどう築くのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 日本の国際貢献

ODA

せいふかいほつえんじょ
政府開発援助

政府が途上国に行く資金や技術の協力。

こくさいきょうりょくきこう
国際協力機構

日本の国際協力を進める機関。JICAとも。

にんげんのあんぜんほしょう
人間の安全保障

一人ひとりの命や暮らしを守る考え方。

日本は、戦後の復興を経て豊かになった経験をいかし、発展途上国を助けてきた。その中心が、政府が行う**政府開発援助**(ODA)である。ODAには、返さなくてよい資金を出す**無償資金協力**、技術や知識を伝える**技術協力**、低い利子でお金を貸す**有償資金協力**がある。

日本の国際協力は**国際協力機構**(JICA)が進めており、その事業のひとつに、若者が途上国に出向いて活動する**青年海外協力隊**がある。また、災害が起きたときには**国際緊急援助隊**を送っている。日本は、一人ひとりの命や暮らしを守る**人間の安全保障**の考え方を大切にし、国連などの場でも役割を果たしている。国際貢献は、国の信頼を高めることにもつながる。

ODAの種類	内容
無償資金協力	返さなくてよい資金を出す
技術協力	技術や知識を伝え人を育てる
有償資金協力	低い利子でお金を貸す

2 SDGsと持続可能な社会

SDGs

じぞくかのう かいはつめくひょう
持続可能な開発目標

略してSDGs。2030年までの17の目標。

じぞくかのう しゃかい
持続可能な社会

将来の世代の暮らしも損なわない社会。

だれひとりとのこさない
誰一人取り残さない

SDGsがかかげる基本の考え方。

2015年の国連サミットで、2030年までに達成をめざす**SDGs**(持続可能な開発目標)が採択された。貧困をなくす、飢餓をゼロにする、気候変動に対策をとる、平和と公正をすべての人に、など17の目標があり、「**誰一人取り残さない**」ことがうたわれている。目標には、教育や保健、エネルギー、海や陸の豊かさを守ることなども含まれる。

持続可能な社会とは、今の世代の願いをかなえながら、将来の世代の暮らしを損なわない社会のことである。SDGsは、国や政府だけでなく、企業、NGO、地域、そして私たち一人ひとりの行動によって達成される。身近なところから環境や人権について考え、できることを実行することが、これからの社会を築く第一歩となる。たとえば、ものを大切に使うことも、目標につながる行動である。

問いへの答え

日本は、政府開発援助(ODA)を通じて、資金や技術の協力を発展途上国に行い、国際協力機構(JICA)が青年海外協力隊を送るなど、国際貢献を進めている。また、2015年に採択されたSDGsは、2030年までに達成をめざす17の目標をかかげ、誰一人取り残さない持続可能な社会をつくることを目指している。

次は ノート で、下線に語句を書きながら確かめよう →

